

塘研究室現地調査報告 05

7月2日にふくしま県民の森と摺上川ダム湖畔にて現地調査を実施しました。目的は遺伝子解析に用いるアザミウマ類数種の予備調査でした。

塘研究室の木目澤さんの研究 (*Thrips* genus-group に属するアザミウマ類の遺伝子解析) では数種のアザミウマ類の追加サンプルが必要なのですが、その一つがふくしま県民の森のミヤマカラマツの花から採集される *Thrips brevicornis* です。以前、杉田川沿いの遠藤ヶ滝への遊歩道沿いで7月中旬にまとまった個体数が得られたので、ミヤマカラマツの開花状況をチェックしに行きました。ところが、予想外にミヤマカラマツはすでにほぼ満開の状態、*Thrips brevicornis* も十分な個体数を確保することができました。遠藤ヶ滝遊歩道沿いはエゾハルゼミの鳴き声と杉田川の水が流れる音と鳥のさえずりが気持ちよく、遊歩道の起点である杉田川を渡る橋の上ではメスアカミドリシジミの雄が縄張りを張っており、また、地面ではアカシジミが翅を休めていました。両種ともにゼフィルス (ミドリシジミ類) と呼ばれ、1年に一度、この季節に出現する森林性のチョウ類で、雄の翅の色が緑、青、赤、白、金などになる美麗種を含みます。

続いて、もう一つのサンプル、*Bolacothrips yasukii* の福島県内唯一の採集記録がある摺上川上流に行きました。記録は摺上川ダム建設前のもので、採集された場所はダム建設やダム湖出現によって大きく変わってしまいました。それでも寄主植物のススキが繁茂する場所はたくさんありますので、1個体でも採れないかとトライしてみました。結局、16種以上のアザミウマ類が採集できましたが (ススキに混じって生えるヨモギやクズを寄主としている種も含む)、目的の種は採集できませんでした。やはり、*Bolacothrips yasukii* の模式産地で、個体数も比較的まとまって採れる茨城県小貝川の河川敷に行った方が良いでしょう。



林内に咲くミヤマカラマツの花



枝先で縄張りを張るメスアカミドリシジミの雄



地面に降りて休息中のアカシジミ



摺上川ダム湖付近に繁茂するススキ